

# クリエイティブひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイティブひがしね

999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内

TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊地和博



## 新型コロナウイルスの中で

広報・地域振興担当理事  
村田民雄

新型コロナウイルスの感染防止のためと、県内でもさまざまな施設や業種が自粛の対象になった。その中に映画館も入っており、休館になる前日、お目当ての映画を観るために午前と午後2回にわたってフォーラム東根に足を運んだ。館内には人影がなく、シアターも2回ともひとりっきりの貸し切り状態だった。途中携帯電話が鳴っても、まわりに気兼ねすることもなく通話をしながらの映画鑑賞である。かつての会場満員の中で笑いやため息に包まれながらの映画館風景は望むべくもないが、200席のホールでひとりじめ映画鑑賞に、ふと40年程前に出版された絵本『せかいにパーレただひとり』を思い出した。

主人公のパーレがある日目をさますと、家の中も外に出てもまわりに人が誰もいないことに気付く。これ幸いと、お菓子屋でチョコレートを食べたり、市電を運転したり、銀行からお金を持ち出したり、しばしやってみたくがなんでもできる、夢のような時間を過ごすのだが、やがて世界のひとりじめよりも、みんな

などということの幸せに気が付くのがあった。

同じ頃に読んだ本に『第三の波』（アルビン・トフラー著）がある。この本では、人類が農耕を始めた第一の波、産業革命による工業化社会を第二の波、そして情報化社会の現代を第三の波と定義する。これまでの仕事がITを駆使した在宅勤務に置き換えられ、労働者は出勤することなく、自宅のパソコンの前で仕事ができる。そのことで鉄道や道路などのインフラコストが削減され、通勤に要する時間を育児や趣味に使うことができるというバラ色の近未来予言書だった。

40年後の今、予言はコロナ禍の非常事態の中で、テレワーク、オンライン授業、Web会議などの形で現実となり、社会の機能は維持できるように見えたが、それはトフラーの描いたバラ色の未来ではなかった。

人と人との生身のつながりから生まれる、涙を流したり笑いあったり、思いやりや共感など、人間として成長していく上で大切なものの価値を、改めて考えさせられた3ヵ月間だった。

# コロナに負けない コロナ危機をバネに!

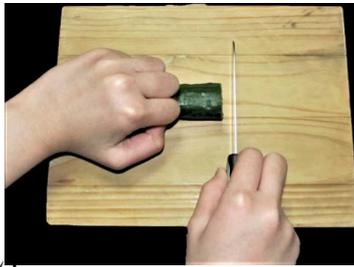
2月から5月にかけて、卒業式や入学式と人生でもっとも華やぐ季節に、新型コロナウイルスの世界的まん延（パンデミック）という、私たちが経験したことのない試練を受けることになりました。東京オリンピックの聖火リレーがイマスタートという直前に、突然コロナチャンネルに切り替わり3ヵ月、今ようやく出口が見えてきました。タントクルセンター、あそびあランドも閉館となる中で私たちは、「コロナに負けない」ための新しい企画立案に取り組んでできましたのでその一端を紹介します。

＜遊びセンターけやきホール＞

## ひがしねMAMMAジュニア

ママ

《思い切り遊び、おなかいっぱい食べて、ぐっすり眠る》 家族のあり方が大きく変わる中、こうした当たり前前かがまならない子どもたちが増えていま。発達や成長に欠かせない



「食う、寝る、遊ぶ」の中で、親子が豊かな暮らしの知恵を身に着けられる支援が必要だと感じ、けやきホールでは小学生以上に焦点を当て、食に必要な知恵を盛り込んだ冊子「ひがしねMAMMAジュニア」を制作しています。

冊子を作るにあたり、中学生の子をもつスタッフが実際に家庭で子どもと共に料理をし、子どもに身に付けてほしいことや気を付けてほしいことなどを参考に、子育て中のスタッフ、栄養士のスタッフが子ども目線でメニューを考案し、食事のバランスや作りやすさを試行錯誤しています。冊子はA4サイズの用紙に印刷し、切り込みを入れて折っていくと手のひらサイズのミニBookに仕上がります。全シリーズ集めたいくなるような遊び心も盛り込まれています。

小学生の自立した食生活を育てるため、ごはんの炊き方や包丁の使い方、火を使わない料理、野菜料理など段階を踏んでシリーズ化していく予定です。（高橋幸江）



＜子育て支援センター＞

## 子育て電話相談

東根市内には転勤などで引っ越してきた県外出身の方も多く、近くに相談できる人がいなかったり、小さい子連れでなかなか外出できないという方も多いのではないのでしょうか?そんな時、子育て中の「こんな時どうしたらいいのかな?」

「これでいいのかな?」と不安を気軽に相談できるよう、東根市子育て支援センターでは【子育て電話相談】を第二水曜日のタントクルセンター休館日を除く毎日9時~17時まで、保育士と栄養士が対応しています。

先日も東根市から東京へ引っ越した方から「声が聞きたくなって…」とお電話があり、何気ない会話から「ちょっと相談してもいいですか?」と子育てで気になっていることをお話ししてくれました。最後に「この状況で外にも出れず、知り合いもまだいなくて…パパ以外の大人と話をするのが久しぶりで、話せてすっきりしました!」と喜んでくれました。電話をもらった私たちにとっても嬉しい出来事でした。

子どもが成長するに従い、悩みも変化していきます。ママ達の不安が少しでも軽減され解決の糸口が見つかればと思いながら、悩んでいる方に寄り添えるよう、私たちは電話の向こうで待っています。

(渡辺友美)



子育て電話相談 TEL0237-43-0732

＜タントクルセンター総合受付＞

# タントクルセンターの 新リーフレット完成



タントクルセンターは市民の方はもちろん、市外県外からも多くの方が訪れます。帰りがけに「このパンフレットいただけますか」と聞かれることが多いのですが、「こんなものしかないんですよ」とフロアマップと面積構成を白黒印刷したものを渡すしかありませんでした。そのたびに、カラーでもっと分かりやすいリーフレットがあったらいいのになあ、という思いが募っていきました。

「無ければ作るしかない…。」

ちょうど、タントクルセンターのホームページの情報が古くなっていたため更新作業を進めていたこともあり、その流れの中、リーフレット作成も進んでいきました。

今回作成したリーフレットは、総合受付に設置するものと視察に来られた方へお渡しするものの2種類を、行政とクリエイトのスタッフの協力を得ながら作成しました。

このリーフレットを持ち帰られた方々が、「東根市のこんないい施設に行ってきたよ!」とまわりの方に勧めてくれることを期待しつつ、微力ながらタントクルセンターのお役に立てるのではないかなと勝手に思っています。タントクルセンターにおいでの際は、是非手に取ってご覧ください。

(山田容子)



＜あそびあランド＞

# 子育て応援Book作成中

東根市が数年前に発行した「ひがしね子育て応援MAP」の情報を更新し、より使いやすいものによようと、「子育て応援Book」の作成に取り掛かっています。



現在の  
子育て  
応援MAP

子どもが中学生になっても、高校生になっても、子育てに終わりはなく、その時期、その時期で、子どもの成長に伴って、親の悩みや不安はつきものです。子育て応援Bookは「妊婦・乳児版」「幼児版」「学童版」「中高生版」の4部構成で作成しています。その時期の子育てのヒントや情報、お悩み一問一答など、子育て親子に寄り添った内容で見やすく読みやすい工夫を心掛けながら原稿を書いたり、構成を考えています。

完成後にはタントクルセンター、あそびあランドに配置しますので、ぜひ手に取ってご覧ください。必ずお役に立つはずです。(高橋陽介)



<クリエイトひがしね>

## 妊婦の方へ 布製マスクプレゼント

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、マスクが手に入らない状況に、妊婦の方の感染予防や不安軽減を図るために、東根市子育て健康課が布製マスクをプレゼントする事業を立ち上げました。

そのマスクとカードの作成、包装を、子育て支援センターで受け持つことになりました。縫製が得意な職員が心を込めて作ったマスクを除菌し丁寧にアイロンをかけて、手書きの〈おめでとうカード〉も添えて準備しています。このような時期ですが、妊娠期を明るく安心して過ごし、無事に元気な赤ちゃんとお出えることをお祈りしています。



## 登録しましたか？ メルマガ「あそびのポケット」

毎月25日に、メールマガジン「メルマガ あそびのポケット」を発行しています。

内容は、同じく毎月25日発行の東根市さくらんぼタントクルセンター&あそびあランド子育て情報カレンダー「ぎゅっと」を中心に、さくらんぼタントクルセンター総合受付での取り扱いチケット情報や一歩先行く早耳情報など盛りだくさんです。

今回の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の際には、臨時休館や開館の情報もいち早くメルマガを通じてお知らせできました。この機会に、ぜひ、登録をおすすめします。(結城栄子)



## 編集後記

★新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のために、会議やイベント、サークル活動と人が集まって何かすることを中止しています。クリエイトひがしねの総会も会員が密閉した空間で密集し密着することから、今年は中止させていただきました。会員同士顔を合わせる貴重な機会だったためとても残念でありませんが、みなさんの健康と安全のため書面での総会となりました。

## <負>をバネに オンライン講座に挑戦!



タントクル・あそびあの両施設は長期休館・休園の中で、「今だから出来ること」を話し合い、リーフレットや子育て応援BOOKなど、再開に向けての企画や見直しを進めてきました。

そんな中、「オンライン講座」「リモートワーク」「テレワーク」という新しい働き方や生活様式が提案されていることを知り、このノウハウを再開後の施設運営に活用出来ないだろうか検討を始めました。

これまでは参加者の時間帯に合わせ、夜の7時開始だったり、日中に託児付きで講座を開催していましたが、託児の定員に達し参加できない、夜は出かけられないといった悩みがありました。その悩みがオンラインという新たなコミュニケーションツールで解消でき、もっと多くの方に気軽に参加していただけるのではないかと考えました。その結果はオンライン会議に挑戦、実施にこぎつけ、業務ごとの担当者会議や休館日研修における全体ミーティングにと活用できるようになりました。今後は講座のオンライン化などで、これまで参加できなかった多くの方に、気軽に参加していただきたいと考えています。

今回の緊急事態宣言で多くの“負”がありました。その中から新たなものも生まれました。常にプラス思考で挑戦を続けていきます。

★山形県の緊急事態宣言が解除された5月18日に、2月29日から休園・休館していた、さくらんぼタントクルセンターのけやきホール、子育て支援センター、そしてあそびあランドが安全と健康に配慮した制限をもうけながら、オープンしました。約3ヵ月ぶり、待ちに待ったオープンでした。子どもたちの元気な声と、はじける笑顔が戻ってきました。やっぱり遊び場はこうでなくっちゃ！みんなの我慢のスティホームがあったから、この日を迎えられる。みんなありがとう！みなさんと一緒に私たちも一歩前進します。(Y)